

蛍光灯の終わり

中西祐介

蛍光色はきれいだ

マーカーの色は蛍からきたのだ
偉人の名言のように私は言った

受け取る者はおらず
もう おそかったけれど

小さな橋の上から

暗くなるのを待った

三月月が明るくて

日が沈んでも 川面^{かわも}が光った

点滅か 明滅か

ぼんやり 光り

消えいり 漂う

川の流れる音と なにかの虫の声と

いくつも いくつも見える

黄緑色が 舞いはじめる

夢みたいだ 嘘みたいだ

風景は静謐^{せいひつ}

川も虫もやかましいが

六月だというのにこんなに寒いなんて
少し厚めの上着を持ってくればよかった
ついでにカップラーメンと熱湯も

お風呂にはいって

夕食をとって眠りたかった

冬の香りが残っている

あたたかい飲み物がほしい

帰ろうか 車に暖房をいれて

閉店を告げるメロディの空耳

キッチンの蛍光灯が

明滅している

蛍光灯はもう

終わってしまうらしい